

山下順三 様 (S40年米英卒) の回顧録が映画化決定

10月29日に岡山県瀬戸内市邑久町にある長嶋愛生園において映画の制作発表会が行われ各メディアの取材がありました。

山陽新聞：10月30日朝刊より

ハンセン病題材映画「新良田レクイエム」 今も苦しむ人の救いに

瀬戸内・長島で製作発表



映画への意気込みを語る製作実行委の能登原委員長(左から4人目)ら

瀬戸内市・長島の国立ハンセン病療養所長島愛生園にあった岡山県立邑久高新良田教室を題材にした映画「新良田レクイエム」の製作発表会が29日、同教室跡地で開かれた。元教師の山下順三さん(76)＝岡山市＝の回想録を基に、国の隔離政策による偏見や差別に立ち向かう若者の姿を描く。2019年1月から口述を行い、20年の公開を目指す。

新良田教室は1955年、全国13の国立ハンセン病療養所に唯一設けられた高校で、87年の閉校までに計397人が在籍。社会復帰を目指す若い入所者らの希望となった一方、教師は白衣の着用を義務付けられ、生徒の持ち物の消毒が徹底されたりした。

山下さんは70年から5年間、同教室に英語教師として勤務。「教訓を伝えたい」と2016年から回想録を執筆していた。映画は、岡山市の映像制作会社社長山本守さん(63)が監督と脚本を担当し、邑久高OBらによる製作実行委員会が手掛ける。

出演者はオーディションで選び、苦悩しながらも輝きを放った若者の姿を、主人公となる教師の目を通して表現する。

発表会には山本監督のほか、製作実行委の能登原昭夫委員長、同園入所者自治会の中尾伸治会長、邑久光明園入所者自治会の屋猛司会長らが出席。山本監督は「偏見や差別を取り払い、今も苦しむ方々の救いになるような映画にしたい」と述べた。

製作費は3千万円。製作実行委が地元企業などから寄付を募る。(大河原三恵)

ハンセン病 映画